

## 市町村名の変遷

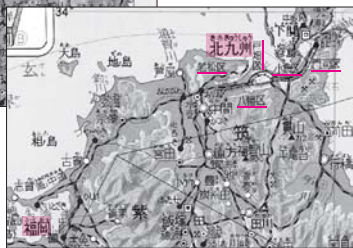
帝国書院 地図編集室

1995年に合併特例法が大幅改正されたことを契機に「平成の市町村大合併」と呼ばれる自治体合併の動きが最近加速しています。2005年4月までに合併した市町村には市の要件、議員の任期・定数、地方交付税額、地方債の発行などで優遇措置を受けることができることから、今後の半年強でさらに多くの新市が生まれることが予想されています。今号では過去の地図帳から「昭和の大合併」をも振り返りながら、いくつかの市町村の変遷をたどってみたいと思います。

**昭和の二つの大合併**：昭和28年、大戦後の地方自治拡大を目的として町村合併促進法が施行され、これを機に「昭和の大合併」がはじまり市町村数は9,868から3,472に減りました。北九州市はその10年後、昭和38年2月に小倉、門司、若松、八幡、戸畑の5市の対等合併により生まれました。当時は九州初の100万都市として新聞紙上に大見出しで扱われ注目を集めました。昭和38年当時の地図帳を見ると、県庁所在地の福岡市が20万～100万人の都市であるに対し（昭和40年当時は約74.9万人）、北九州市は100万人以上の都市として掲載されています。今でこそ県都福岡市は130万人、北九州市は100万



▲昭和34年度版



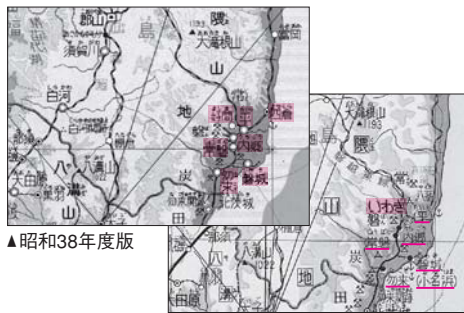
▶ 昭和38年度版  
『小学校社会科地図帳』

を割り込み99万人と逆転しましたが、当時は北九州市の方が大きかったわけです。合併当時の旧市名は、現在も七つの区名として、また小倉や門司港など駅

名として親しまれています。

同時代の広域対等合併の例としてあげられるのに、福島県のいわき市があります。昭和41年10月、平市、磐城市、常磐市、勿来市、内郷市、四倉町、好間町など5市9町村が合併して誕生したいわき市は、当時市としては日本で第1位の面積をもち（1231.34km<sup>2</sup>）、ひらがな市名ということでも話題を呼びました。

なぜひらがな市名になったのか。おそらく旧自治体の利害関



▲昭和38年度版

▲昭和42年度版『小学校社会科地図帳』

係が絡み、簡単にはいかなかったものと予想されます。平は交通の要衝で常磐線と磐越東線の結節点、今でこそ「いわき駅」と駅名変更になりましたが、1995

年までは「平駅」の名称でした。常磐はこの一帯に常磐炭田があり、産業の中心的な役割を担っていました。勿来には「勿来関」で知られた歴史的知名度があります。旧国名としての「磐城」を採用しようにも、既存の「磐城市」のみを利するような命名には賛成しかねる自治体も多かったと思われます。そこでひらがな市名に帰結したと推察されます。

**ひらがな市名の増加**：いわき市同様、最近ひらがな市名が増えてきたことに気づいている方も多いのではないのでしょうか。これらを列挙しますと、**むつ市**（青森、昭和34年2町が合体、同35年大湊田名部市から改称）、**ひたちなか市**（茨城、平成6年那珂湊市、勝田市の合体により誕生）、**つくば市**（茨城、昭和62年3町1村が合併。その後2町を編入）、**さいたま市**（埼玉、平成13年浦和市、大宮市、与野市が合併）、**かほく市**（石川、平成16年3月、高松町ほか3町が合併）、**あわら市**（福井、平成16年3月、金津町、芦原町が合併）、**いなべ市**（三重、平成15年、員弁ほか4町が合併）、**さぬき市**（香川、平成14年4月、志度町ほか5町が合併）、**えびの市**（宮崎、昭和41年、3

町が合併、同45年市制施行)の9市あります。この他一部にひらがなを取り入れた市名では、**あきる野市**(東京、平成7年～)、**東かがわ市**(香川、平成15年4月～)があり、17年1月には**南あわじ市**(兵庫)が誕生します。

ひらがな市名を採用する背景には、字体からくる「やわらかさ」「優しさ」といったものを市名の印象にもたせる意図もあるかもしれませんが、利害関係を抑え、自治体の住民の賛同を得やすかったというのも事実ではないかと思えます。ちなみに、唯一カタカナを取り入れた市としては、**南アルプス市**(山梨)があります。

**新市名決定のむずかしさ**：同じ町村名の自治体は全国にたくさんありますが、地方自治法では同名の市は認められていないため、市に昇格する際すでに同名の市が存在する場合は名称を変える必要があります。唯一の例外は、東京都と広島県に存在する**府中市**ですが、多くは市名に旧国名や東西南北といった方位を冠することで区別しています。いくつか例をあげてみましょう。

**北広島市**(北海道)は明治17年に広島県人が集団移住し、開拓がはじまりました。町の名称は故郷と同じく広島町としてきましたが、平成8(1996)年9月に市制を施行するにあたり、北にある広島という意味で現在の市名になりました。ちなみに**広島県東広島市**は、昭和49年、西条町をはじめ4町の合併で誕生しましたが、知名度の高い広島市の東という意味で採用されました。**東大阪市**(昭和42年、布施、河内、枚岡の3市合併により誕生)、**西東京市**(平成13年保谷市、田無市の合併により誕生)も同様でしょう。

行政的な混同を避けるために方位や旧国名をつけた例としては、**松山市**(愛媛)に対する**東松山市**(埼玉)、**福岡市**(福岡)に対する**上福岡市**(埼玉)、**村山市**(山形)に対する**東村山市**(東京)・**武蔵村山市**(同)、**大和市**(神奈川)に対する**東大和市**(東京)、**旭市**(千葉)に対する**尾張旭市**(愛知)、**長野市**に対する**河内長野市**(大阪)、**狭山市**(埼玉)に対する**大阪狭山市**、**佐野市**(栃木)に対する**泉佐野市**(大阪)、新潟県上越市

の前身**高田市**に対する**大和高田市**(奈良)・**豊後高田市**(大分)などなどかなりの数にのぼります。

“本家本元”が消滅したために市昇格の際にも運よく同名で受理されたケースもあります。たとえば、**近江八幡市**(滋賀県)は昭和29年に八幡町はじめ5町村の合体で生まれましたが、そのときには現在の北九州に**八幡市**があったため、**八幡市**を名づけることができませんでした。しかし京都府で昭和52年に**八幡市**が成立したときにはすでに消滅していたためこれは受理されました。同様に**滋賀県守山市**(昭和45年市制施行)は、**愛知県守山市**が昭和38年に名古屋市に編入され消滅していたために誕生できたわけです。

地名度の高さから、本家本元と市名を巡って紛糾した自治体で記憶に新しいものに、サッカーJリーグで有名な鹿嶋アントラースの本拠地、**茨城県鹿嶋市**があります。ここは有名な鹿嶋神宮を要する門前町、駅名も鹿嶋神宮駅です。鹿嶋町民のこだわりはひとしおだったに違いありませんが、佐賀県に同名の市がすでにあったことから、文字を「島」から「嶋」に変えた経緯があります。



▲平成16年度版『小学生の地図(最新版)』p.19, 34

**今後の市町村名変遷と地図帳**：16年7月末現在、15年4月～17年4月の2年間だけで合併・編入による新市町発足は114にのぼります。これにより、**伊豆市**(静岡、16年4月～)、**常陸大宮市**(茨城、16年10月～)のように旧国名を用いた市名、**四国中央市**(愛媛、16年4月～)のように地理的位置に注目した現代的市名など、特色ある新市名が生まれている一方で、歴史的に由緒ある自治体名が消滅しつつあるのも現実です。私どもでは、新自治体名が定着するまでの一定期間、旧市町村名を「字名」というかたちで地図上に残していく予定です。地図を眺めながら、新しい発見をしていただければ幸いです。